イヌマキ　*Podocarpus macrophyllus* (Thunb.) Sweet

マツ科　Pinaceae

1.　利用対象部位：樹皮

2.　組織形態：

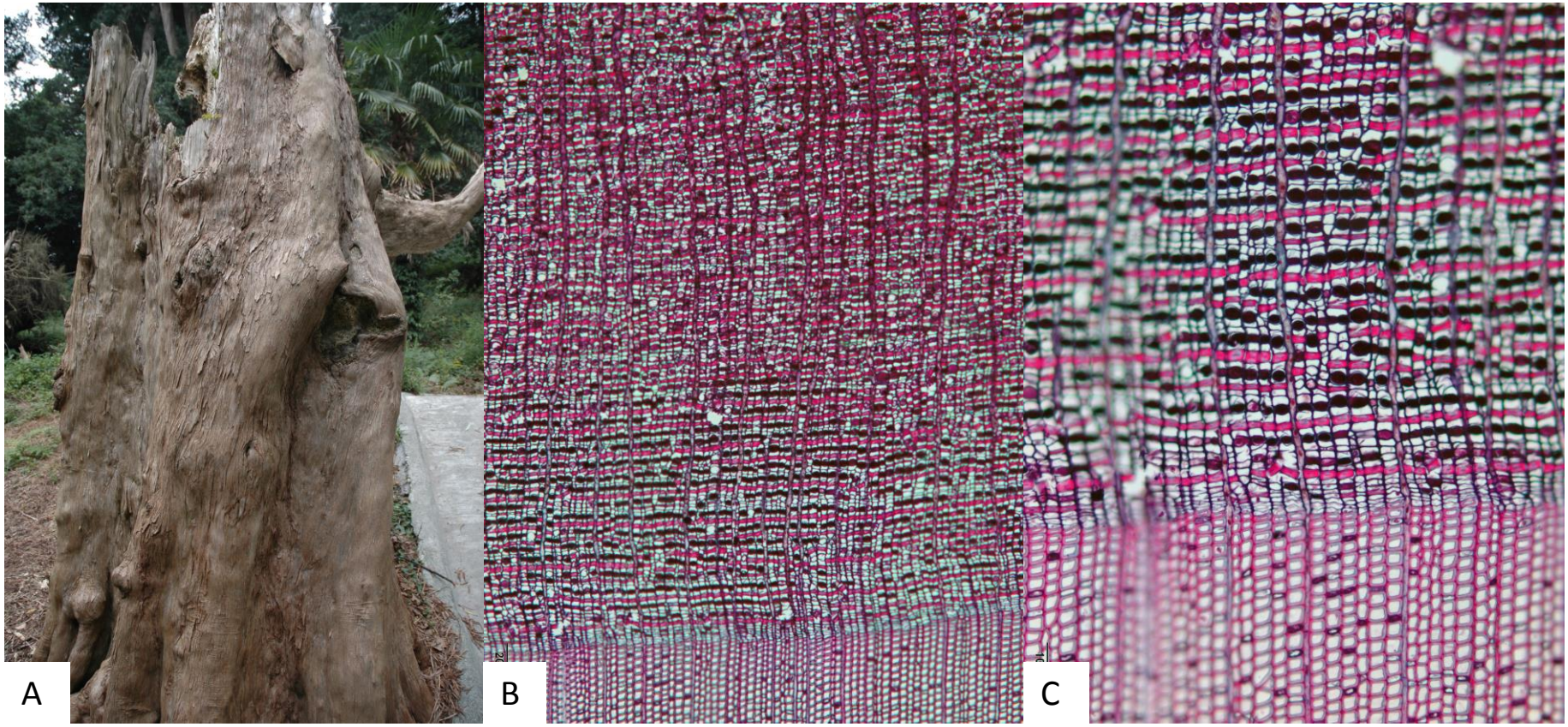
　樹皮は平滑で薄く紙状にげ落ちる。

　内樹皮は、細胞内容物がある柔細胞、細胞内容物が無い篩細胞、厚壁で断面が長方形の繊維細胞からなる。それぞれ 1 細胞の厚さで柔細胞-篩細胞-柔細胞の繰り返しを基本とし、柔細胞層の位置に繊維細胞の層が入れ替わることを繰り返す。繊維細胞層はしばしば断続的である。樹皮の放射組織は単細胞幅。

　以上のようにイヌマキの樹皮にはヒノキ科同様に繊維細胞層が発達することから利用が可能かと思われるが、利用例は聞かない。

3.　利用例：なし

4.　遺跡出土遺物：樹皮はなし。太さ 2cm ほどの通直な萠芽枝を丸木弓にする（東海地方の弥生時代遺跡で多い）。



A:イヌマキの樹皮（東京都伊豆大島）。外樹皮は不定形の紙状に薄く剥げる。 B＆C:内樹皮の横断面とその拡大. 画面下部に二次木部および形成層帯がある。二次篩部で、黒紫色の細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無いのが篩細胞、赤色に染まっているのが繊維細胞。それぞれ1細胞の厚さで柔細胞-篩細胞-柔細胞の繰り返しを基本とし、柔細胞層の位置に1細胞の厚さの繊維細胞の層が入れ替わるが、繊維細胞層はしばしば断続的である。樹皮の放射組織は単細胞幅。